

2013.9.24
26年9月所修会

「御所市の歴史探訪Ⅱ」

—秋津洲の道を訪ねる—

資 料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

(9月24日)

歴文9月研修会
「御所市の歴史探訪Ⅱ」のご案内
—秋津洲の道を訪ねる—

《コース案内》

- ・集合 8:30 中小企業会館前 時間厳守 (トイレを済ませておくこと)
- ・出発 8:30 近鉄奈良駅前 ⇒R24 ⇒京奈和自動車道路 ⇒御所市
- ⇒10:00 吉祥草寺 (見学と解説) ⇒水平社博物館 (見学)
- ⇒徒歩で 神武天皇社・曠間神社 (拝観と解説) ⇒バス乗車
- ⇒三光丸クスリ資料館 (見学と昼食) バス⇒孝安天皇陵 (車窓より)
- ⇒掖上鑑子塚古墳 (下車・解説) ⇒日本武尊白鳥陵 (下車・解説)
- ⇒條ウル神古墳 (解説) ⇒一言主神社 (彼岸花 下車散策)
- ⇒オプション (オプション: 古民家中村邸、柿本神社など) ⇒帰途

近鉄奈良駅帰着 (予定) 16:30

- ・担当世話人 : 川井、弓場、森、坂東、古川
- ・緊急連絡先 古川祐司 携帯 090-4298-2344)

御所市の史跡を訪ねて

1 御所まちとは

この町の中心部は、室町時代後期までは殆ど古記録がなく、戦国・江戸時代、近世・近代にかけて興亡の歴史が紡がれて行く。

葛城川を挟み西岸に商業都市の西御所、東岸は寺内町の東御所とて形成され家々の間を流れる背割り下水と呼ばれた水路も当時の姿をとどめている。

御所の名の由来は諸説あり、

- ① 葛城川の川瀬（ごせ）とする説
- ② 孝昭天皇の池心宮の御所が転訛した説
- ③ 中心点付近の三室が御室（貴人の住居）ととられて御所と書かれたと言う説
- ④ 葛上の旧国府があったからと言う説 など。未だ確証は無い。

域内の地名に難読の古名があるのも面白い。全部解ければ御所通である。

- ① 吐田 ② 蛇穴 ③ 五百家 ④ 櫛羅 ⑤ 巨勢 ⑥ 増 ⑦ 忍海 ⑧ 奉膳
- ⑨ 水尻 ⑩ 掖上

御所周辺に係わる有名人

（古代）神武天皇・葛城襲津彦・役小角・高僧行基・磐之媛・蘇我馬子・

（現代）司馬遼太郎・堺屋太一・白州正子・奥野四郎平・西光万吉・榎本スミ・

田中屋児・吉村禎章・平岡卓

2 今日の順路

(1) 吉祥草寺

役小角生誕の地に創建されたと言う。902年、醍醐寺の理源大師聖宝が勅を受け再建。中世には大峯修験の隆盛と共に栄えたが、1349年、高師直の焼き打ちに会って全焼。江戸期に再興され僧房六字が並び建つ大寺となる。

本堂には本尊の五大明王。祖師堂には役小角32才像、母白専女（しらとうめ）を祀る。

寺号は吉祥草（釈迦が座に敷いていた草）のなかに小角が庵を結んだ事に因む。小角の庵は茅原寺と呼ばれ、この寺の前身とされる。

(2) 水平社 (博物館 見学)

人間の平等と尊厳をうたい1922年(大正 11年)創立された。

15世紀初頭。被差別部落は死牛馬を所有者から無償で引き取ることが出来る「草場」を保有し、死牛馬を解体し、皮は雪駄や太鼓などの原料として利用、肉を食肉として販売するなど収益を得ていた。また、水平社発祥の地 柏原では皮や骨から膠を生産していた。

1871年。「斃牛馬勝手処理令」が公布され、死牛馬の処理が自由化され、部落は収入源を失う。明治政府は「穢多」や「非人」など賤称を廃止、身分と職業を平民と同一のものとする「解放令」を布告する。しかし、因習的な差別観念は無くならなかった。

1912年。柏原地方の有力者が「大和同志会」を、1920年。阪本清一郎・西光万吉・駒井喜作ら青年たちが「燕会」を結成し、部落改善運動から解放運動が展開されていく。1922年。水平社設立。その後、社会運動として全国規模で広がりを見せるが、1941年。「結社等臨時取締法」により解散届けを要求され、運動の幕を下ろす。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」熱は人の持つ心の暖かさ、光は希望。水平社の創立綱領である。

(3) 神武天皇社 (参拝)

初代天皇、神武天皇がこの地で即位したと言われる。

祭神はカムヤマトイワレヒコノミコト。本殿は流れ造り。(ちょっと見にくい)

1736年。「大和志」に「橿原宮、柏原村に在り」と記載されている。また、1772年 本居宣長の菅笠日記に「畝傍山の近くに橿原の地名はなく、一里余り西南にある」と記述がある。境内社の糠間 (ほほま)神社は前後のアヒラツメノミコトを祀り 糠間の丘で国見をしたと言う。天皇は大和を平定した後、ヒメタタライスズヒメノミコトを娶り、前後はこの地に栲苴住まいしたと伝承される。

その怨念が夫婦の縁を呪うとの言い伝えから、この前を嫁入り行列が通るのを禁忌とされている。

(4) 三光丸クスリ資料館 (見学)

大和は太古から役 小角を始め、推古期には薬洲や薬草園造りなど、わが国の薬学や医療の発展に大きな役割を果たして来た。先人たちの遺業を後世に伝える。

三光丸とは胃腸薬。南北朝の頃、後醍醐天皇が吉野に行幸の際、豪族 越智氏が家伝の生薬を献上しこの名を名付けられたとある。「三光」とは太陽、月、金星の光のこと。

(5) **孝安天皇玉手丘上陵** (休息、古墳群解説)

第6代 天皇陵 円墳 日本足彦国押人尊・大倭帯日子国押人命と呼ぶる
欠史八代の一人として実在は確認されないが、初期の天皇として崇敬される。

(6) **掖上鑑子塚古墳** (観望)

5世紀後半の前方後円墳(全長150米・後円部直径102米・前方部88米・高さ12米)
大きさは室宮山古墳と並ぶ。「鑑子」は薬缶に似ていることから。
被葬者は南大和の有力者と推定されている。

(7) **條ウル神古墳** (観望)

2001年。発掘調査の結果、石舞台古墳・見瀬丸山古墳に匹敵する規模の石室・石棺が
発見される。築造は6世紀後半、被葬者は巨勢氏の盟主 許勢臣爾持とされる。
「ウル」とは「空ろ」・「空洞」の意。現在は埋められて居る。

(8) **日本武尊 白鳥陵** (観察)

第12代 景行天皇の第三子。天皇の命を受け、西国の荒ぶる神を征討する。更
に東国を平定。掃路、伊吹山の神と戦い深傷を負い、それが元で伊勢の地で 崩御。
三重の亀山に鎮魂の御陵が残る。

タケルの魂は白鳥となって飛び立ち、大和 富田(御所市)に舞い降り、更に河
内の国 志歳(羽曳野市)に舞い降りたと言う。

それぞれの御陵を「白鳥3陵」と呼ぶ。亀山市・御所市・羽曳野市は白鳥伝説ゆ
かりの地として幅広い交流を続けている。

(9) オプションとして

この時季、曼珠沙華の盛りであり名所の長柄 一言主神社の参道周辺に立ち寄りた
いと予定しております。

また時間が許せば、長柄神社・古民家 中村邸へも足を延ばします。

(川井秀夫 記)

御所古墳参考資料

1. 掖上鐘子塚古墳

前方後円墳で、全長150m、後円部径102m、高さ17.5、前方部幅88m、高さ12m。後円部の径：前方部の長さが、2：1で、纏向型先方後円墳である。

幅30mの周濠が巡っているが前方部南側では近接して存在する径50mの円墳のため輪郭がゆがんでいる。築造時期は5世紀後半ころと見られる。南葛城では室の宮山古墳に次ぐ規模を誇り、この地域における有力首長墓といえる。

2. 宮塚古墳

全長44mの前方後円墳で後円部径23m、前方部幅23.5mである。北に回り込むと横穴式石室が開口している。玄室奥には凝灰岩の家形石棺が復原されて置かれている。蓋の長辺には各2個の縄掛け突起があつて、6世紀前半か中頃のものとされている。

3. 日本武尊琴弾原白鳥陵

能褒野に葬られた日本武尊の魂は、白鳥となって大和へ向かい、この琴弾原を経て、今の羽曳野市古市に降り立ち、その後白鳥となって何処ともなく天高く飛び去った。

4. 條ウル神古墳

6世紀後半の築成とみられ、石室の規模（長7.1m、幅2.4m、高さ3.8m）、家形石棺（長さ2.8m、幅1.5m、高さ53cm）が大きく、同時期の石舞台（馬子墓）、五条野丸山古墳（欽明陵）、植山古墳（元・推古陵）、赤坂天王山古墳（崇峻陵）などに匹敵する。

家形石棺には縄掛突起が8個あり、特例として注目される。また墳丘は現状では定かでないが100m前後の前方後円墳の可能性も残っている。

（縄掛突起）

通常は、6個（長辺側：2個、短辺側：1個）であるが、條ウル神古墳の場合は長辺側に3個あり特殊です。石棺の蓋を持ち上げる時に縄を掛ける突起部分で、形も場所も時代と共に変化します。

（畿内の縄掛突起の変遷）

畿内の家形石棺では、蓋上部の平坦部が狭く、蓋の長側斜面にそれぞれ二個、合計四個の縄掛突起を持つものが、中期の終末期に現れます。その後、丸味をもっていた縄掛突起が角張った方形断面に変わり、蓋の短辺にも各一個の突起が加わり合計六個の突起を持つようになります。続いて突起の位置も蓋斜面から側面に下がり、やがて縄掛突起のないものが現れます。

以上

石室石棺の大きさ比較

| 横穴式石室（玄室）の規模の比較（m） | | | | | |
|--------------------|---------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 古墳名 | 所在地 | 長さ | 幅 （奥壁） | 幅 （玄門） | 高さ |
| 見瀬丸山 | 橿原市五条野町 | 8.3+ α | 4.1+ α | 3.6+ α | 3.9+ α |
| 石舞台 | 明日香村島ノ庄 | 7.6 | 3.4 | 3.4 | 4.8 |
| ● 條ウル神 | 御所市條 | ● 7.1+ α | ● 2.4+ α | ● 2.7+ α | ● 3.8+ α |
| 塚穴山 | 天理市勾田町 | 7.0 | 3.0 | 3.0 | 不明 |

+ α は埋没のため不明

| 家形石棺 蓋 の大きさ比較（cm） | | | | |
|-------------------|---------|------------|----------|------|
| 古墳名 | 所在地 | 全長 | 幅 | 高さ |
| 見瀬丸山（前棺） | 橿原市五条野町 | 289（275） | 145 | 63 |
| ● 條ウル神 | 御所市條 | ● 278（270） | ● 147 | ● 53 |
| 槿山（東石室） | 橿原市五条野町 | 270（260） | 158 | 62 |
| 赤坂天王山 | 桜井市倉橋 | 264（255） | 170（159） | 55 |

（ ）内は縄掛突起を除く数値

